NIE実践報告

1．タイトル：ＮＩＥ　－メディアリテラシーを身につけよう－

2．学校名

私立京都学園高等学校

3．実践者名（代表者名）

伊吹　侑希子

4．学年

高校1年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語総合・1年普通コース　３クラス　104人

6．単元（本時の学習課題）名

新聞記者になってみよう！

7．目標（狙い）

身近なTV番組や新聞を通して、情報を単に受け取るだけでなく、それぞれ取り扱い方に違いがあることを理解し、情報に主体的にかかわり、自分の考えを持つことの大切さを認識させる。

8．評価の視点

●インタビューをする人から、どれだけ情報を聞きとれたか、取材メモ・新聞記事を総合的にみて評価する。
●授業を通して、情報操作の危険性を認識し、情報の受け手としてどうあるべきと考えたか、感想文で評価。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

現代文・表現　[評論「情報と身体」をきっかけに新聞に興味を持たせ、新聞から情報を読みとる作業や聞き取りを行い、紙にまとめる作業を通して、メディアとの関わり方を考えさせる]＜１０時間＞

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①吉岡弘「情報と身体」（『新編　国語総合　改定版』三省堂）＜２時間＞
②新聞一面記事の比較＜１時間＞：朝日・読売・京都新聞のそれぞれ同日1面記事をワークシートに見出しを写しながら比較し、全国紙・地方紙の特徴を考えさせる。
③新聞の比較＜２時間＞
ノーベル賞受賞決定のニュース[2010年10月7日朝刊]のコラムと社説を読み、要約・見出しをつけさせる。
④ＴＶ欄の比較＜２時間＞
1960～2010年まで10年ごとの同日ＴＶ欄をコピーし、番組構成を比較させ、海外の新聞のＴＶ番組構成も見せ、ワークシートに記入することで、メディアの特性について考えさせる。
⑤生徒が新聞記者となって、友達を取材し、Ｂ５用紙に新聞という形でまとめる。＜２時間＞
作成された新聞記事をインタビューされた人に渡し、情報発信者は、情報が一部しか紙面には載せられないことなどを体感させる。
⑥朝日新聞の記者を招きNIE講演会を実施＜１時間＞

11．児童・生徒の反応、感想・意見

ＴＶ欄の分析から時代の変化を読みとったり、海外の新聞の広告や写真・紙面からも文化を感じたりと知的好奇心を刺激されたようだ。新聞づくりでは、インタビューで答えた内容と記事の印象が違うことを体感し、情報に主体的に関わる必要性を認識でき、新聞をより身近なものに感じられたようである。

12．成果と課題

教科書教材だけでなく、新聞や講演会を通じて、多角的・体験的に”情報”に関わることで、生徒たちが楽しみながら、メディアリテラシーとは何か、メディアとどう向き合えばよいのか考えられたことが良かった。普段、新聞を読まない高校生たちに、「新聞」を手にとって読むきっかけになったと思う。
NIEは主に国語科や社会科の授業で取り組まれてきたが、新学習指導要領に掲載されているように、どんな教科でも扱えるという多様性も特徴である。生徒たちの学習意欲を刺激する授業をするためにも、学校全体として単元を練り実施していくことにより、さらなるNIE効果の可能性がみえてくるのではないだろうか。